

武蔵野市第五期長期計画・調整計画策定委員会
圏域別市民意見交換会（吉祥寺地区）

1. 開会（午後7時）

2. 策定委員紹介

（事務局による会の流れの説明の後、夏目委員長の挨拶があり、各委員が自己紹介した。）

3. 意見交換

【市民】 22 ページの行・財政の基本施策3「市民に届く情報提供と市民要望に的確に応える仕組みづくり」の文中「市政情報を分析・活用しやすい形」に「わかりやすく」をつけ加えてください。きょう、私は市政情報について調べてほしいという依頼を受けたので、市のホームページやプレス情報を検索したのですが、わかりにくいし、必要な情報を得ることができませんでした。これでは検索に不慣れた人は、もっと途方に暮れてしまいます。市政情報は常に「わかりやすく」を念頭に置いて提供していただきたいと思います。

【委員長】 貴重なご意見として拝聴いたします。

【市民】 19 ページの都市基盤の基本施策4「道路ネットワークの整備」には、通過交通の住宅街への流入、大気汚染の問題が書かれています。五長のときは、外環道路については話し合い中ということで、書かれませんでした。東京オリンピック開催が決まり、外環道路の排気塔、インターチェンジが決まって、練馬では裁判も起きています。武蔵野市も、本宿小学校裏の住宅街に40メートル幅の道路ができます。でき上がってしまってからでは私たちは何も言えません。市民の皆さんに知ってもらうためにも、「ネットワーク」という言葉だけではなく、もうちょっと書き込んでほしいです。

同じく都市基盤の基本施策5「下水道の整備」には、第三中学校の横に大きなますをつくったことが書かれていません。再びこのような施設が必要になるのかどうかも書いていません。住民の猛反対を経て、多額のお金をかけてつくったことも、全市民にわかるように、市は自信を持って書いていただきたいと思います。

【A委員】 最近、外環に関する動きが出ていますが、話し合いはまだ継続しており、一定の方向性を出すのが難しい状況です。環境も含めた周辺状況の変化をどう捉えるか、長期計画・調整計画の中に書き込むことの適切性など、今後の策定委員会で議論させていただきます。

【市民】 下水問題のあおりで、東町に大貯留槽をつくることになったということ、武蔵野市に住む人たちのほとんどが知りません。これが今、周辺住民のつらさを増幅しています。

また、住民の自助努力で安否確認システムができ上がりました。武蔵野市には川がなく、いわば陸の

孤島です。火事の際、消火栓まで水が来ない可能性もあるということを市民は知りません。このような現状を長期計画の大前提に据えて、市民の皆さんにわかっていたいただきたいです。

【委員長】 安心・安全へのかかわりは大事なところだと思います。

【A委員】 実は、緑町にはごみ焼却場があるということを武蔵野市民は知らないという、同じようなご意見を頂戴したばかりです。市は、一地域に限定することなく、行政の中身を市民に広く知らせるといった責務があります。しかし、市報の1面を使って広報しても、市民の皆さんになかなか届かないという現状に頭を悩ませています。今後の情報提供のあり方を含めて調整計画としてどのような記述ができるか、検討します。

【市民】 外環道のトンネルはもう掘り進んでいます。外環の2の出口も決まりました。「まだ検討中」ではなく、決定した事実に対しては、武蔵野市も何かしなければいけないと思います。

【委員長】 武蔵野市は議論が進行中です。

【市民】 21 ページの都市基盤の基本施策7「三駅周辺まちづくりの推進」の(1)「吉祥寺地区」の特に吉祥寺駅南口のこれからについて、どのようなことが話題になったのでしょうか。

【委員長】 吉祥寺南口は、委員会で視察に行きました。

【B委員】 吉祥寺駅南口の開発は、私も以前から注目しています。買収も一部進んでおり、地権者の方のご提案なども含めて検討中と伺っています。皆様のほうからも、具体的なお話をぜひお聞かせください。反映できるものについて検討させていただきます。

【市民】 調整計画の全体のボリュームは、討議要綱で例えば100字ぐらいで書かれていることが、400~500字になると考えてよいのでしょうか。

【委員長】 調整計画の冊子は、五長の冊子と同じぐらいのものになる見通しです。

【市民】 19 ページの都市基盤の基本施策4「道路ネットワークの整備」にもあるように、武蔵野市民は自転車の利用が多いです。ところが、オランダの事例に比較して、市内の道路が自転車に有利に計画されているとは思えません。都道の井の頭街道、五日市街道、女子大通りは、市道よりも問題があるという声も出ています。「都道だからしょうがない」で済ませず、都との調整も必要です。

【委員長】 武蔵野市は、自転車道、歩道、車道、グリーンベルトという整備がなされているところと、そうでないところがありますね。

【B委員】 確かに、オランダはうらやましい限りです。武蔵野市内でも、自動車優先のスペースを設けたところも一部できていますが、まだ皆様が親しみを感ぜられる状態にはないことも承知しています。

道路を利用する側も、歩行者、自転車、自動車というネットワークで考えていったほうがいいと思うんです。それが市の中、または都との調整でどの程度考えていただけるのかの提案をしていきます。

【市民】 まず、「障害児」の表記についてです。長期計画に倣って「がい」を漢字表記にしていると伺いました。障害児と障害を持たないお子さんを一緒に教育していくというインクルーシブ教育に触れていながら、なぜ「害」と漢字にしているのでしょうか。

次に、少子化の問題についてです。私の周りにも子育てに悩む母親がたくさんいます。もっと子育てをしたくなるとか、子育てを楽しみと思えるような支援、対策の書きぶりがあってもいいのではないのでしょうか。それが待機児童対策にもつながっていくと思います。

【副委員長】 1点目の障害の「害」を平仮名表記にするべきだという意見も確かにあるのですが、慎重にした方がよいと思います。「害」を平仮名表記することに嫌なイメージを持たれる障害者の方が今、大変増えています。この件は、もう少し精査したいので、持ち帰らせてください。

2点目の待機児童の件は、スピード感を持って対応するというのを委員間の共通認識にしています。子育てが楽しいと思える環境を整えることも大事ですが、同時に、子育て中つらいときにつらいと声に出して言える環境も大事だと個人的な経験からも思っています。

【市民】 桜堤児童館についてです。長期計画では 0123 化施設に転用するという書かれ方がなされています。地域では、ワークショップや意見交換会を開いて、桜堤児童館の存続について話し合ってきました。市内に1つしかない児童館をなくしてほしくないという声のある中、市は 12 月の議会で、桜堤児童館を今年3月で廃止する条例をかけようとしていました。私たちは反対署名を集め、議員さんも反対して、条例議案は一旦取り下げになり、児童館を民営化するのは来年3月まで1年間先送りとなりました。児童館として運営を1年間継続する方針が出されたところです。

行政の方は「市民の代表の方が作った長期計画だから、そんなに簡単に変えることはできない」と言います。「幾ら反対しても変えられないのですか」と聞くと、「今は長期計画の調整計画ですので、まだまだお話は聞くことは聞けます」とのことでした。調整計画にどう載せるかわかりませんが、ちゃんと議論をしていただきたいです。ところが、討議要綱からは外すと、I「はじめに」の3ページの2「討議要綱について」に書かれてしまって、策定委員の方々に議論していただくことができなくなってしまいました。

児童館をなくしてほしくありません。児童館機能があることで、子育てに苦しむお母さんたちは随分助けられているのです。武蔵野市の子育て支援に関することには、子どもたちをどう育てたいかという柱がなくて、ゼロ歳から3歳は 0123、4～5歳は幼稚園や保育園、小学生は指定校区内の学童やあそべえ、中高生はプレイスと、子どもたちの居場所を輪切りにしています。でも、児童館は全部ひっくるめた子どもが自由に来られる場所として、いじめや不登校や、大きな問題に至ることを未然に防いでいます。子育て支援が整って、もう1人産んでみようかなと思える環境ができれば、少子化対策にも大きな効果となります。

武蔵野市は、出生率が多摩でワースト1ですが、私の周りには多子の家庭がたくさんあります。安心して子どもを産み育てられるよう支援していくという意味でも、策定委員の皆様には、児童館が必要か不要かという議論をしていただきたいと思います。

【委員長】 桜堤児童館の問題は、委員会にも突発的な形で出てきました。討議要綱は、議論が進行中のものは載せていません。漏れ何うところでは、今、大事な議論もされているとのことですが。

【市民】 行政の方は、市民とも議員とも話が進んでいると言いますが、実際には議論していません。

【委員長】 児童館は、桜堤に1館だけという条例、歴史とその後の経緯も含めて、市民の皆さんの合意形成がなされた上で今日を迎えていると思います。今、それがなくなるという段階で議論が喚起されているということで、策定委員では議論を詰める状況になくて、討議要綱にも載せていないのです。

【C委員】 児童館をなくさないでほしいという声は策定委員会でも承知しています。児童館を廃止するという後ろ向きのイメージがありますが、市は、今できていないことを、よりきちんとやっていくための、「転用」という言葉を使った新しい取り組みを進めています。討議要綱に載せることで、これまで長期計画に沿って市がやってきていることをストップさせることのないようにと考えてきましたが、策定委員会として、反対の動きやご意見も踏まえ、調整計画としてどういう書き方ができるか、考えていく必要があるのかなと思います。

【A委員】 出生率についてですが、お子さんをお持ちの方は2人3人と比較的子どもの数が多い一方で、例えば学生の女子寮などがありますと、出産対象年齢の人数がふえて、結果的に出生率の数字が下がります。子どもを産む方と産まない方の偏在が課題と認識しています。

【市民】 武蔵野市の子育てのプランは、0123のように、発想自体はすばらしいのですが、ゼロ歳から18歳まで、どういう子どもを育てて、どの時点で何をするか的位置づけがなされてきていません。

武蔵野は今、0123というよりも012と保育園、幼稚園、小学校、中学校と、全部横切りにしています。児童館という名前ではないにしても、子どもの育成を切れ目なく見守る場所という本質は保持してもらいたいです。武蔵野には児童館が桜堤に1館しかないの、子どもたちは児童館を知りません。杉並に行って児童館を知った子どもたちは、驚いて親に話します。桜堤にあった施設を、あえて0123にする理由もないと私は思っています。ゼロ歳から18歳までの子どもの育成をどうつなげていくのかという位置づけをした上で、施設のあり方を考えていただきたいと思います。

【委員長】 ご意見を拝聴します。

【市民】 1つ目は、14ページの文化・市民生活の基本施策2の(3)「平和施策の推進」に関することです。11月24日の平和の日の前後に、平和に関するイベントや資料展示をしています。武蔵野市でも、11月を平和月間としてはいかがでしょうか。

2つ目は、15ページの文化・市民生活の基本施策5の(3)「都市農業の振興と農地の保全」です。1人1区画の市民農園ではなく、共同で農業できるコミュニティファームのようなものがあると、農業振興とともに市民が土に触れる機会もふえて、コミュニティづくりもできると思います。一部空き地を耕して、余り大きくないコミュニティガーデンのようなものを既に始めているところもあります。

3つ目、22ページの行・財政の基本施策1の(2)「自治体運営のあり方」の本文には「条例の果たす役割も含めて検討する」とあります。自治基本条例は「検討する」ではなく、制定するところまでい

く時期だと思います。

【委員長】 境に新しくできたふるさと歴史館にも、戦時中の資料が展示されていますね。

【D委員】 11月を平和月間として、図書館や郷土博物館などでの展示に結びつけていくような、具体的な取り組みができないかということは、個人的にも強く思っているところです。

コミュニティファームも、いいですね。自分1人で借りるというのは無理でも、武蔵野市に農地があつて仲間と共有できるというのは、いいご提案だと思います。

自治基本条例は、私の担当ではないのですが、私も今こそ制定するべきだと思いますので、ハッパをかけるべく調整計画の策定委員として努力していきます。

【A委員】 農地の、共同で農業するというのは非常にいいご提案なのですが、生産緑地として指定されていない農地しか他人に貸すことができないという実情があり、難しいかと思います。武蔵野市は、農地の90%以上が生産緑地として指定をされています。

【委員長】 所有権の問題も絡んで難しいのですが、ご意見として拝聴いたします。

【市民】 地域で起こっていることを住民が知る機会がなかなかありません。東町は、法政跡地の問題、下水道の問題、公園の問題、道路の問題を抱えています。私は、市報に目を通して0123や学童のことは知っていましたが、児童館のことは知りませんでした。自転車問題は、長期計画に少し記載がありましたが、討議要綱にも載らなければ、市民は知るよしもあります。市民は、配布物から、市が5年間何をやったか、やってくれたのかを見ます。市は、やったことは遠慮せずに、自信を持って書いてください。書いて、多くの人に知ってもらわなければ、大きなことは進められないと思います。

【委員長】 この会は、調整計画策定の上で、市民の方から個別のご提案やご意見をいただいて、さらにブラッシュアップしていくという趣旨で開催しています。第五期の長期計画をベースに、その後の経済状況の変化や、人口の推移、財政見通しの変化を勘案して盛り込む調整計画では、どうしてもある部分だけ特化して議論を詰めるというわけにはいきません。武蔵野市の14万という人口をどう考えていくかなのですが、この14万というのは、皆さんの意見を吸収しやすい規模でもあると考えています。武蔵野市は、夢を持っていい自治体であると私は常々考えておりますので、さらにいい計画に練り上げていければと思います。

【市民】 15ページの文化・市民生活の基本施策6「都市・国際交流の推進」の部分をもう少し書いたほうがいいと思います。今、都市観光が注目され、羽田空港から吉祥寺行きのバスも運行されています。しかし、無料のWi-Fi整備が遅れがあったり、来てはみたもののどこに行ってもいいかわからないということでは、せっかくの観光も楽しめないことになります。

また、武蔵野市には定住外国人の方も数多くおられるので、そのフォローアップの姿勢を示すことも大事だと考えます。

【委員長】 武蔵野の観光は、地域に潤いを持たせ、来て、見ていただくことが中心です。外国人の観

光も、昔とは随分さま変わりをしました。来て楽しんでいただけるようにすることも大切ですね。

定住外国人の方についても、皆さんが日本語に堪能というわけではありません。それが災害時には重大な問題となりますので、今のご指摘を大変ありがたく思います。

【D委員】 定住外国人の方々に武蔵野市で活躍していただきたいという話は、策定委員会でも出ました。13 ページの基本施策2の(1)「一人ひとりが尊重される社会の構築」の文中の「一人ひとりが求める価値観や生活観が多種多様になっている。性別、年齢、国籍によって異なる多様な価値観や生活観を知り、認め合いながら生き、個性やキャリアが活かされていることは」に「国籍」を入れることで、その思いを落とし込んでいます。

観光は、経済的な面でもぜひという声がある一方で、大勢の方がみえることで吉祥寺に買い物に行きたくなくなるという声もあって、バランスが非常に難しいのです。国も、オリンピック開催に向けて、国を挙げた外国人の受け入れ態勢の整備をしていくと思います。そのあたりを文化やスポーツ面の記述に盛り込んだのですが、都市観光の面でも、市内のWi-Fiの整備のように、来てくださる方のニーズに合ったことを考えていく必要があるのかもしれない。

【E委員】 私は、第三期長期計画第二次調整計画のときから、きょうの皆さんのように、意見を出す側として参加してきました。今回、私は策定委員として、皆さんの意見を聞く側にいるわけですが、皆さんの意見を伺って、計画に反映できること、できないこと、できない理由は何なのかをご説明しなければいけないと思っています。同時に、私からも意見を言わせていただいて、それに対する皆さんのご意見なり反論なり、ご提案なども伺いたいと思っています。

22 ページの行・財政分野の基本施策1の(1)「市民参加のあり方の追究」には、「常に新しい時代の市民参加のあり方を追究する」と書いてあります。私は、ここを一番大事にしたいのです。策定委員は、討議要綱という形で市民の皆さんに投げかけをする前に、①行政の方が提示する運営上の課題、②市民が市政に投げかける課題、③市民が市民に投げかける課題についての意見を聞くことが必要だと思っています。それらを網羅したものを討議要綱として、行政と市民の皆さんに投げかけるというやり方をすべきではないか。今回の調整計画では間に合わないと思うのですが、六長に向けて、少しでもやり方を変えることができないかと思っています。

具体的には、私は、中高生の居場所としてのコミュニティセンターが気になっています。プレイスには、中高生しか入れない場所がありますが、コミセンにも、プレイスのような場所があっているのではないかと。児童館のようなものも、中学校区に1つずつあっているのではないかと考えています。

児童館に関しては、廃止とか、廃止しないとかいう話の前に、五長には児童館機能を全市的に展開すると書いてあるのですから、それが進行しているのかを考えるのが、調整計画の役割だと思っています。皆さんのご意見なり反論をいただければと思います。

【市民】 市では、よくパブリックコメントを募集していますが、形骸化している感じがします。井原委員のおっしゃる市民参加のあり方は、本当にそのとおりで、実現するといいなと思います。

児童館については、市は、小学校12校に遊び場としてのあそべえをつくって、児童館的機能ができたと言い切っています。でも、それは小学生だけが対象です。ゼロ歳から18歳まで、切れ目のない子育て支援をするためには、私は児童館が必要だと感じています。ところが、武蔵野市は、その児童館をなくす方向にあります。

コミセンのお話もありましたが、コミセンこそ、児童館要素を持たせられると思います。でも、遊んでいけば「うるさい」、泣くと「静かにしてくれ」と言われてしまうのが現状です。コミセンを回している方々は、ボランティア精神でやってくださっていますが、行政が、子どもの育成に必要な施設、人に関するガイドラインのような、ある程度のベースをつくる必要があると思います。共助は、公助があってこそです。その上で地域の力、民間力が育っていくべきだと思います。

【F委員】 コミュニティセンターは、運営も含めてコミュニティの中で行ってきました。始めから子どもが使うことを想定してスペースを設けたり、中高生の勉強のためのスペースをつくっているところもあります。

コミセンは、地区によって規模や抱える問題が違いますので、それぞれで話し合っただくことがポイントとなります。子どものことも、障害に関しても、介護も、全てのことをコミセンでというのも無理な話ですので、地域ごとにコミュニティセンターに求める機能について考え、必要に応じて行政に要求するという回路をつくるのが大切だと考えています。

居場所の輪切り化は、私もそのとおりだと思うので、策定委員会に持ち帰らせてください。

【市民】 井原委員は、前に、コミセンを利用しようとしたが大変使いにくかったという意見をお持ちだったと記憶しています。話を重ねるうちに大分理解してくださったようですが、まだやはり使いにくいという考えがなおありではないかと思います。

コミュニティは、規模の違いから、利用者の要望を実現できないところもあるのですが、地域フォーラムで、コミセンをソフト・ハード両面で、よりよいものにしていくための行政の方との話し合いを始めています。子ども家庭課から、コミセンで子育てのことができないかというご提案もあったところです。輪切りの問題もあるのですが、子育てする側も、要求するだけではなくて、自分たちで開拓していくということも考えに入れていただきたいと思います。

私は、校庭開放委員もやっていますが、子どもたちにとって安全な遊び場でもある校庭を利用する人がゼロかと心配するような日もあります。コミセンで、合唱コンクールがあったり、卓球や百人一首の大会などがあると、それを機に児童・生徒さんたちが利用して下さいます。お子さんをお持ちの保護者の方々も、リサーチして、大いに利用していただきたいと思います。

【市民】 長期計画・調整計画では、さまざまな夢が語られます。第四期の調整計画では、市に「お金のことは考えないで、何でも語ってください」と言われて、委員から、吉祥寺駅から緑町まで地下鉄を引いてほしいという話まで飛び出しました。しかし、やはり 20 ページの都市基盤の基本施策 5 「下水道の整備」の「今後 20 年間で約 280 億円が必要」というような記述は必要です。0123 施設に関しても、1 年間でどのくらいの費用がかかるかといった概略の数字でもいいので提供していただければ、市民も判断材料とすることができます。

【G委員】 財政の問題では、何が幾らかかるかも重要ですが、その場合は同時に効果も記載していかなければならないと思います。経済効果だけでなく、お金で換算できない効果も発生します。そこをどう記載するかが難しいところです。

【委員長】 どんな事業計画も、お金の問題は欠かせません。武蔵野も、税金、歳出、さまざまな問題

を抱えています。昨年は、消費税が上がったことで、地方消費税が若干入りましたが、平成 40 年ごろまでは、公共建築物の建てかえや下水道の更新などが控えています。そのための基金を積み立てているとは言っても、平成 50 年には歳出が歳入を上回る状況も見えています。この先、高齢化もあって避けがたい経費は増える一方で、長期的には必ずしも安閑とはしてられません。そうした中で、皆さんの武蔵野を愛する気持ちを育て、守っていくのは、皆さんのこういう熱い議論ではないかと思っています。

今後とも、ご意見は、総合政策部企画調整課の窓口でもお伺いできるようになっておりますので、この第五期長期計画・調整計画が一步でも進みますようお願いしたいと思います。

閉会（午後 8 時 56 分）